

【概要】

平成 24 年 3 月に策定された「スポーツ基本計画」では、「スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の創出を目指すとしている。

上記の社会を創出するため、三つの施策によってその目的の達成を目指す。

【主管課（課長名）】

スポーツ・青少年企画課（白間 竜一郎）

【評価】

○ 子供の体力の向上（施策目標11-1）

各種事業を通じて、各関係機関等における子供の体力向上のための取組を支援することにより、子供のスポーツ機会の充実を目指し、学校や地域等において、子供がスポーツを楽しむことが出来る環境の整備に取り組んだ。子供の体力については、体力水準の高かった昭和60年代と比較すると依然として低い水準となっているが、各種目の実績値においても、記録はおおむね横ばいの状態にあり、子供の体力の低下傾向には一定の歯止めがかかっていると考えられる。

○ 生涯スポーツ社会の実現（施策目標11-2）

各種事業を通じて、地域スポーツ環境を向上させるとともに、ライフステージに応じた安全なスポーツ活動を推進するための環境を整備した。

その結果、活動指標である「総合型地域スポーツクラブが創設されている市区町村の割合」は前年度比0.8ポイント増の79.0%、「拠点クラブ数」は前年度比17増の50か所となっており、前年度に比して進捗が見られる。また、成果指標である「成人の週1回以上のスポーツ実施率」（平成24年度実績（※））は、平成21年度比2.2ポイント増の47.5%と着実に上昇している。

今後は、スポーツ実施率を向上させるべく、総合型地域スポーツクラブの全国展開等の更なる実施とともに、障害者の低いスポーツ実施率を向上させるため、障害者のスポーツ参加の促進等を更に強力に進めていく必要がある。

（※ 出典は「体力・スポーツに関する世論調査」であり、最新の調査の対象年度は平成 24 年度である）

○ 我が国の国際競技力の向上（施策目標11-3）

平成26年に開催されたソチオリンピックでの日本代表選手団の成績は、金メダル1個、銀メダル4個、銅メダル3個の計8個で国外開催冬季大会では過去最多であった。これに加えて4位から8位の入賞数は計20であり、メダル数と合わせた入賞総数も計28と国外開催大会では最多であった。しかし、スポーツ基本計画における政策目標である「過去最多を超えるメダル数の獲得」、「過去最多を超える入賞者数」、「金メダル獲得ランキング10位以上」については達成できなかった。

政府や招致委員会、スポーツ界等がオールジャパン体制で取り組んだ結果、平成25年9月に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しており、今後、なお一層の国際競技力の向上が期待される。

【設定されている施策目標】

施策目標 1 1 - 1 子供の体力の向上（モニタリング）

施策目標 1 1 - 2 生涯スポーツ社会の実現

施策目標 1 1 - 3 我が国の国際競技力の向上（モニタリング）